

平成28年度 学校評価表

徳島県立つぎ高等学校

重点課題	重点目標		活動計画	評価指標	評価指標による達成度と活動計画の実施状況	評定	総合評価及び所見	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方針	
	全体レベル	下位組織レベル								
人権教育の充実	① 生徒の自立と自己実現を図る。	1 「人権の日」を実施し、日常生活の中で生徒の人権意識の涵養を図るように努める。	生徒アンケートで「人権の日が有意義であった」を80%以上にする。	評価指標は85%であり、生徒の人権意識の涵養に一定の成果があった。	A	(評定) A	来年度以降もハンセン病回復者の方々との交流会を積極的に続けてほしい。 アンケート結果からは、全ての教育活動の中で人権教育が行われていると感じられる。特に「人権の日が有意義であった」が85%であり、人権意識高揚のためにも続けてほしい。 美馬フィールドワークでは、95%の教職員が有意義であったと感じている。さらに、地域の方々の思いを受けた人権研修に取り組んでほしい。	本年度は、大島青松園でハンセン病回復者と生徒・教職員・保護者の交流会を実施することができた。参加型の人権学習を進めるため、次年度もハンセン病回復者の方々との交流を進めていく。また、フィールドワークも継続して実施し、教職員の研修を深めていく。 教育活動の全てにおいて、人権について考える機会を積極的に取り入れていく。		
			2 「人権学習ホームルーム」を実施する際に、普遍的な視点と個別的な視点の双方から取り組み、個人人権課題を積極的に取り扱う。	生徒アンケートで「ホームルーム活動(人権)が有意義であった」を80%以上にする。	評価指標は90%であり、普遍的な視点と個別的な視点の双方から取り組むことができた。				A	
		② 教職員研修の充実を図る。	1 美馬フィールドワークを実施し、地域の方々の思いを受けた人権研修に取り組む。	教職員アンケートで「美馬フィールドワークが有意義であった」を80%以上にする。	評価指標は95%であり、地域の方々の思いを一端ではあるが、感じ取ることができた。	A			本年度は計画していた国立療養所 大島青松園でのハンセン病回復者の方々との交流会も実施できた。	
				2 人権教育に関する研究授業・研究協議に全職員で取り組む。	教職員アンケートで「研究授業・研究協議が有意義であった」を80%以上にする。	評価指標は100%であり、研究授業・研究協議が自分の授業に生かされた。				A
					3 ホームルーム活動(人権)で、担任・副担任・所属によるティームティーチングを2回実施する。	教職員アンケートで「ティームティーチングが有意義であった」を50%以上にする。				ホームルーム活動でティームティーチングが実施できていないクラスが多く、次年度の改善課題である。
		③ 学校・家庭・地域の連携の推進を図る。	1 保護者や地域の方々が参加できる人権教育講演会や研修会を実施する。	人権教育講演会や研修会に保護者や地域の方々から10名以上の参加を得る。	PTA研修旅行参加者25名、人権教育映画1名の合計26名の保護者に人権教育研修を実施した。	A				
	2 異校種間交流の充実に努める。			特別支援学校にユニバーサルデザインの考え方を取り入れた教具を提供する。	特別支援学校から修理依頼のあった教材を、機械科が修理した。	B				
	④ 生徒の自主活動の活性化を図る。	1 美馬高校生友の会や「中・高生人権交流事業」に積極的に参加する。	美馬高校生友の会に年間9回以上参加する。 「中・高生人権交流事業」西部ブロック実行委員会及び生徒部会に年間6回以上参加する。	美馬高校生友の会、西部ブロック実行委員会及び生徒部会に参加する生徒が少なく、積極的に活動できなかった。	B					

重点課題	重点目標		活動計画	評価指標	評価指標による達成度と活動計画の実施状況	評定	総合評価及び所見	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方針		
	全体レベル	下位組織レベル									
学習指導の充実	①	主体的に学習に取り組み、他の人と協働しながら学ぶ態度を育てる。	1	全ての教科で学習目標を明確にし、学習内容の意義を自覚させることで、生徒が主体的に学ぶ意欲と態度を充実させる。	生徒アンケートで「主体的に授業に取り組むことができた」を80%以上にする。 職員アンケートで「年間学習指導計画に基づいて、授業を実施することができた」を80%以上にする。	生徒アンケートでは89%の生徒が「授業中積極的に発言する」などと答えており、主体的に授業に取り組んでいる様子がうかがえる。また、職員の90%が「年間学習計画に基づいて、授業を実施した」と答えた。	A	A (評定)	生徒アンケートから学校全体として89%の生徒が「授業中積極的に発言する」と答えており、積極的に授業に参加できており、教育活動全てに良い影響を与えている。 テスト前の学習時間調査では、評価指標に若干届かなかったことは残念であり、家庭学習時間の確保に努めるようさらなる工夫が望まれる。 スマホ等の普及により、読書離れが進む中、読書の啓発のため今後も読書会を続けてほしい。	学習への動機付けを十分に図るため、アクティブラーニングを取り入れた研究授業を実施し、全校体制で取り組んでいく。そのためには、グループ学習やICT活用等の授業を参観し、生徒の様子を観察する等、互いに研鑽し合う必要がある。また、研究授業、公開授業をとおして、全教職員が授業改善に対して共通に取り組めるように努める。	
			2	各教科における調べ学習や放課後の読書会等とおして学校図書館の計画的な活用を図り、生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実させる。	生徒一人あたりの貸出冊数を年間3.0冊以上にする。 読書会を年2回以上実施する。	生徒一人あたりの貸出冊数は2.4冊であった。ビブリオバトルは年1回開催した。	B				
		②	基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させる。	1	「基礎学」(朝15分間)の時間を計画的に実施し、基礎学力の定着・向上を図る。	生徒アンケート「基礎学の時間は有意義だった」を80%以上にする。 年間実施計画に対する達成率を80%以上にする。	基礎学の時間の満足度は、82.5%で目標を達成することができた。 年間実施計画に対する達成率は、95%で計画通り実施することで一定の成果を挙げることができた。				A
				2	テスト1週間前の家庭学習時間調査を行う。	テスト前の家庭学習時間調査で「学習時間が0時間の生徒」を5%未満にする。	定期考査前の家庭学習時間調査において、学習時間が0時間の生徒は年平均で全校生徒の3.5%であった。				A
	③	知識・技能を活用して、課題の解決を目指し、自分の考えを表現する態度を育む。	1	各種資格の学習をとおして、知識技能を身に付けるための学習方法を習得するとともに、自らの職業意識を高め、進路の方向性を見いだす力を養う。	授業時数を標準時間の80%以上確保する。	授業時数は、標準時間の82.5%であった。	A	授業時数の確保については、2学期には授業曜日を振り替えて授業時数の平準化にも努めた。 難関の国家資格取得では、第3種電気主任技術者の難易度が高まっている中で、困難に挑戦しようとする生徒たちがいる。教師側も専門知識の研鑽に励む必要がある。 工業と商業が協力し合って、みまからの自動灌水装置の製作、アロマキャンドルの製作などに取り組んだ。地域の資源を活用して主体的に課題解決に向けて努力する生徒が育成できた。			
				難関国家資格・検定試験の受験を奨励し、地域社会の発展に貢献できる技術者の育成に努める。 第3種電気主任技術者試験合格1名以上 全商3種目1級資格取得10%以上	第3種電気主任技術者試験合格は出なかった。 全商3種目1級資格取得は、26.1%と目標を大きく上回った。	B					
				学習の成果を各科の発表会や課題研究概要集の形で発表し、生徒の自己評価シートによる目標達成度を80%以上にする。	3年生の92%の生徒が課題の解決に向け主体的に学習に取り組めたと答えており、学んだ知識や技術を生かして問題解決に取り組んだことが高い満足度につながっている。	A					

重点課題	重点目標		活動計画	評価指標	評価指標による達成度と活動計画の実施状況	評定	総合評価及び所見	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
	全体レベル	下位組織レベル							
			2 工業と商業が連携して、地域の資源を生かした教育活動に取り組むとともに、その成果を機会を捉えて県内外に発信する。	各科の専門を生かした地域貢献活動に取り組む、生徒の自己評価シートによる目標達成度80%以上にする。 桜堤のLED照明修繕工事 池田支援美馬分校への教材寄贈 建築模型の製作 美馬市観光交流センターでの販売実習 うだつの町並みでの観光ガイド等	地域貢献活動に取り組んだ生徒の90.4%が目標を達成したと答えた。中には、高い目標を掲げ頑張ってきたのに自分に厳しい評価をする生徒もいる。教師としてはもっと評価してあげたいところである。	A			

重点課題	重点目標		活動計画	評価指標	評価指標による達成度と活動計画の実施状況	評定	総合評価及び所見	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方針
	全体レベル	下位組織レベル							
進路指導の充実	生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育成する。	① 自己の特性を理解させ、自らのあり方・生き方を考えさせる進路指導の充実を図る。	1 進路に関するHR活動及び、進路相談を計画的に実施する。	生徒・保護者アンケート回答での「進路指導が役に立っている」の評価を85%以上にする。	保護者85%、3年生93%が役に立ったと回答した。	A	(評定) A	校名が変わったことにより、企業への知名度が心配されたが、求人数も順調に伸びており安心した。実質の充実をともなっている知名度なので素晴らしいことである。 就職試験(1次)での内定率は96.2%で、進路決定に関して94%の卒業生が満足している。本人の希望・適性に応じた進路決定がなされていると感じる。 また、本年度も早々と就職希望者の内定が決定し、日頃の教育活動の成果が現れていると感じる。	キャリア教育を1年時より継続的に実施し、自分らしい生き方を実現するための力を育成していく。また、インターンシップを奨励し、職業観・勤労観の充実に繋げていく。 本年度は求人たくさんいただいた。引き続き、次年度も求人数の確保のため、企業訪問を積極的に行っていく。 さらに進路情報を積極的に発信し、進路選択に役立てるように努める。
			2 進路説明会・進路通信をとおして、生徒・保護者に進路情報を提供する。	進路説明会と進路通信を、年3回以上発行する。	進路説明会を開催した。進路通信を、年3回発行した。	A	(所見) 就職希望者全員が早々と内定を得ることができたのは、旧2校をはじめ、つぎ高校の卒業生が全国各地で長年に渡って活躍されているお陰である。しかしその背景には、長年に渡り保護者・生徒・教職員が一丸となって営々と築いてきた本校の教育実績がある。また進学についても、個別指導に重点を置いた、生徒個々の実力に見合ったきめ細かい指導の結果、全員が希望した大学等に進学できた。さらに役立つ進路情報を発信したい。		
		② 望ましい勤労観・職業観を育成し、生徒の希望・能力・適性に応じた、進路の実現を図る。	1 三者面談や個別指導などとおして、生徒・保護者の希望・適性に応じた進路指導を実施する。	「自分の決定した進路に満足していますか。」の生徒アンケート回答を85%以上にする。	生徒の94%が「自分の決定した進路に満足している。」と回答した。	A	また進学についても、個別指導に重点を置いた、生徒個々の実力に見合ったきめ細かい指導の結果、全員が希望した大学等に進学できた。さらに役立つ進路情報を発信したい。		
			2 SPIなど、学力試験の変化に対応した、模擬試験を実施する。	就職試験(1次)での内定率を80%以上にする。	就職試験(1次)での内定率は96.2%であった。	A			
	③ 進路開拓を推進し、進路先の確保に努める。	1 企業訪問を実施し、就職求人数を確保する。	訪問企業数を80社以上、求人数を300人以上にする。	訪問企業数は80社以上、求人数は1000人を超えた。	A				

重点課題	重点目標		活動計画	評価指標	評価指標による達成度と活動計画の実施状況	評定	総合評価及び所見	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策	
	全体レベル	下位組織レベル								
生徒指導の充実	①	基本的生活習慣を育成する。	1	服装・頭髪検査に合格しない生徒には保護者と協力し粘り強く指導を行う。	頭髪服装検査を年10回以上行う。	評価指標は、年10回以上実施した。チェックを受けた者は再検査を徹底し全員合格した。	A	(評定) A	通学列車の乗降マナーで、本年度は近隣の方から感謝のハガキが届く等、マナーの向上が図られて素晴らしいことである。 SNSでの問題が話題になっているが、問題となる生徒指導ではなく、問題行動の未然防止に努めてほしい。 また、生徒指導をおとぼせせずことを目指してほしい。 自転車の交通マナー指導については、被害者ではなく加害者としての指導も強化してほしい。	通学途中のマナー指導は継続して取り組んでいく。 SNSは正しいルールでスマホを使用することを、全校集会、学年集会、HR活動等、あらゆる機会を捉えて指導していく。 本年度、自転車安全教育指導員に9名の教員がなっている。これらの教員が中心となり、警察と連携しながら指導の強化に努めていく。
			2	遅刻過多の生徒については保護者と綿密な連携を行い指導する。	遅刻者0名の日を年間50日以上にする。	保護者との連携、登下校指導などの効果が見られた。	A	(所見) 月1回の全校集会では必ず服装・頭髪検査を実施するとともに校内外での生活指導を徹底し、自他の生命の尊重を特に重視し、非行防止に努めた。		
	②	交通安全教育の推進を図る。	1	JR貞光駅から校門までの交通危険箇所での立哨指導を行う。特に下校時の巡視を徹底する。	登校下校の立哨指導を授業日の95%以上行う。	評価指標は、100%実施できた。特に駅から通学路、踏切、校門までの登下校指導は徹底できた。	A	交通危険箇所での立哨指導をはじめ、校門前での挨拶の励行など登校指導を徹底した。また、遅刻指導を行うとともに昼休み時間等の校内巡視指導を実施し、問題行動の早期発見や無断外出等の防止に努めた。		
			2	通学別集會を各学期毎に行う。	交通安全行事(通学別集會・交通安全講習他)を年5回以上実施する。	評価指標は、100%実施できた。	A	各学期に通学別集會、考査期間中の列車指導、警察署等関係機関からの交通安全に関わる講演・講習会を実施し、自転車・原付バイク及び徒歩通学者の交通マナーや列車通学生の乗降及び列車内でのマナー等の指導を徹底した。		
	③	良好な対人関係を構築できる社会性を育成し、暴力・いじめ等重大な人権侵害を未然に防止する態勢を整える。	1	各課において道徳教育の目標を定め、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養う。	各課・各学年において、それぞれ具体的な取組を行う。	評価指標は、全校集会或いは学年集会時に徹底した指導ができた。	A			
			2	無記名による調査を実施し、暴力・いじめにつながる行動などを把握し対応する。	暴力・いじめに関する無記名調査を年3回実施する。	評価指標は、100%実施できた。各学期に実施することができ、HR担任との連携を密にとり対応できた。	A			

重点課題	重点目標		活動計画	評価指標	評価指標による達成度と活動計画の実施状況	評定	総合評価及び所見	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
	全体レベル	下位組織レベル							
特別活動の推進	部活動を充実・活性化させ、生徒の精神面、体力面での成長を図るとともに、団結心や協力を育成する。 学校行事、生徒会活動の充実を図り、ボランティア活動の機会を取り入れ、豊かな人間性を育てる。	① 生徒会活動についての積極的広報と生徒会活動への理解と協力を促す。	1 生徒会新聞の発行とホームページの更新を適宜行う。	生徒及び職員の生徒会活動に対する満足度を90%以上にする。	生徒会新聞の発行とHPの更新も適宜行った。また評価指標は、生徒が96%、職員が96%であった。	A	A (評定)	来校する度に、挨拶を大きな声でしてくれて、素晴らしいことだと感じている。これからも続けてほしい。 ラグビーフットボール、陸上競技、ソフトテニス、弓道、少林寺拳法が全国大会に出場しており、日頃の練習の成果が現れている。 生徒会・部活動の活動も校内はもとより、貞光駅清掃や吉野川河川敷等の環境美化活動を定期的に行うことにより、地域の方からも好感を持たれるとともに、生徒の豊かな人間性の育成の一翼を担っている。	礼儀正しい挨拶は、近隣の方々や来校された方々からも、褒めていただいている。引き続き挨拶運動に努めていく。 本年度は、全国大会に出場する部が多く、学校全体が活気づいた。引き続き部活動の活性化に繋がるように努めたい。また、部活動の入部率向上のために、さらに努力していく。 清掃活動は継続して続けていき、周辺地域に貢献していく。来年度以降も実施する。
			2 生徒会役員を中心とした挨拶運動を実施する。	挨拶運動を毎月1回実施する。	評価指標は、毎月1回実施した。	A			
		② 各種委員会を活性化させる。	1 各種委員会が主体となった学校行事を実施する。	生徒及び職員の学校行事に対する満足度を90%以上にする。	評価指標は生徒が93%、職員が100%であった。	A			
		③ 部活動への入部率及び継続率を向上させる。	1 部活動入部までの放課後の時間(見学できる時間)を確保する。	部活動入部率・継続率の向上(入部率90%以上、1年間継続率95%以上)	部活導入部率93%、1年間継続率95%であった。	A			
④ 部の活動に奉仕活動を加え、豊かな人間性の育成に努める。	1 各部活動が自主的に奉仕活動を実施する。	5部以上の部活動が奉仕活動を実施する。	JRC部、ラグビー部、サッカー部、ソフトテニス部、バスケットボール部などが奉仕活動を実施した。	A					
教育相談・特別支援教育の推進	学校全体での組織的支援体制及び関連機関との連携による支援体制の充実を図る。	① 一人一人に応じた特別支援教育の推進を図る。	1 特別支援教育に関する職員研修会を実施する。	職員研修会を年2回行う。	評価指標は、年2回実施し、特別支援教育について研修を深めた。	A	A (評定)	個別の支援計画が必要な生徒はいなかったが、支援を要する生徒が増加する可能性は十分にあるので、引き続き支援教育をお願いしたい。 心肺蘇生法とエビベン実技講習会等、全教職員が緊急事態に備えることができるように、引き続き研修を続けてほしい。	特別支援教育の研修を充実させ、全教職員の理解を深め教育力向上を目指していく。また、様々な支援事業や機関と連携を深め、支援が必要になった時にすばやく対応できる体制を構築していく。 全職員を対象に「心肺蘇生法とエビベン実技講習会」を実施し、緊急事態の時にAEDやエビベンを迅速に使用できるようにする。
			2 支援が必要な生徒には、個別の支援計画を立て、カウンセラーや専門機関と連携して支援を行う。	支援が必要な生徒に、個別の支援計画を立てる。	評価指標は、個別の支援計画が必要な生徒はいなかった。教育相談便りを年2回発行し、教育相談の案内を広報した。また、相談箱を設置した	B			
		② 教育相談活動の一層の充実を図る。	1 一人一人の生徒への声かけや定期的な個人面談による教育相談を行う。	生徒保健委員会を毎月開催するとともに、保健だよりを毎月発行し、保健に関する啓発活動を行う。	保健委員会は毎月開催、保健だよりは毎月発行した。保健室において、個人面談による教育相談を行った。	A			
			2 生徒一人一人の心身の状況を把握するために「悩み・心配事」の調査を行う。	「悩み・心配事」の調査を年2回実施する。	評価指標は年2回実施し、調査結果を教職員に報告し、情報の共有化を図った。	A			

重点課題	重点目標		活動計画	評価指標	評価指標による達成度と活動計画の実施状況	評定	総合評価及び所見	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策		
	全体レベル	下位組織レベル									
環境・防災・安全教育の推進	①	環境問題学習の一層の推進と啓発を進める。	1	環境保全活動啓発ポスターの作成・掲示を行うことにより、省エネ・エコ意識を高揚させ、節電・節水に努める。	電気・水道使用量などは昨年度を基準に節制する。	電気・水道使用量は、ほぼ昨年と変わりなく節電・節水に努めることができた。	A	(評定) A	池田支援学校美馬分校に節水コマの取付けをする等、エコ意識の高揚に努めていることがよく分かる。今後とも、引き続き節電・節水に努めていただきたい。	本年度は猛暑日が何日かありダイヤモンド警報を受けるものの対応が迅速に行われたため年間の電気使用量は昨年とほぼ同様であった。また、蛇口に節水ゴマを取り付けることによりエコ意識の確立に努めている。さらに生徒と教職員が協力して省エネ・省資源活動に取り組む継続を維持する。清掃活動は次年度も引き続き実施し地域に貢献していく。また、次年度は水害（河川氾濫）の想定した訓練も考え防災訓練を充実したものと危機意識を高め、対応力を養いたい。また、救急救命法の訓練では全教職員が訓練を重ね対応ができるよう啓発・指導する。	
			1	全職員による毎日の清掃指導を実施し、教室の清掃を徹底的に行い、清潔な学習環境を作る。	職員及び生徒の実施できている自己評価を95%以上にする。	毎日、全職員・生徒で一斉懸命清掃活動に取り組んでいるので適切な学習環境の維持ができています。	A				
		②	校内・校外清掃の活性化を図る。	2	生徒が利用している校外の施設等清掃活動を行い、地域の環境美化に努める。	年1回以上、貞光駅や吉野川周辺の清掃活動を行う。	各部活動の生徒中心に清掃をしたり、生徒会を中心にした清掃活動は地域に貢献している。				A
				1	防災訓練を実施する。	火災を想定した防災訓練と地震を想定した防災訓練を行う。	自然災害を想定した防災・救急救命訓練を実施した。				A
	③	防災・安全教育を推進する。	2	AED講習会を実施する。	職員アンケート「AEDを使用できる」を90%以上にする。	緊急時にAEDを使用できる職員の割合が昨年より多くなってきている。	A				

重点課題	重点目標		活動計画	評価指標	評価指標による達成度と活動計画の実施状況	評定	総合評価及び所見	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策	
	全体レベル	下位組織レベル								
開かれた学校づくりの推進	保護者や地域の声に耳を傾け、学校教育活動全体にわたって地域の教育力を生かすとともに、日々の教育活動をホームページ等で公開する。	① 情報発信を積極的に行う。	1	ホームページを利用して、各種行事など生徒の活動状況を発信する。	ホームページを更新し、最新情報を提供する。(更新回数100回以上)	ホームページは65回以上の更新を行った。	B	(評定) A (所見) PTA総会、役員会、体育祭等の各行事において多くの保護者の参加をいただき、岡山方面へのPTA研修会においても多くの参加をいただき好評であった。本年度PTA揃いのTシャツを作り好評であった。 中学生体験入学では、募集定員の1.6倍の参加者があり、中学生の本校への関心の高さが感じられた。進学説明会においても、各科紹介はもちろんのこと、部活動・資格取得・求人倍率の高さや主な就職先、大学進学状況など、就職も進学もできる学校として力強く情報発信に努めた。 オープンスクールは中学生22名を含む84名の参加を頂き、夏休みの体験入学とはまた違った視点から普段の授業の様子を見学していただいた。本校の魅力をPRすることができたと考える。	PTA総会に参加していただくために、的確な進路情報等の提供ができるように工夫する。 また、PTAの各種の行事に参加することによって、色々な情報が得られ、学校理解が深まり、自分の子供理解に役立つことを、保護者に訴えるように努める。 ホームページを更新することにより、教育活動を発信し、保護者や地域の方々にご理解・ご支援を得るように努める。	
			2	マスメディア等を通じて、学校情報を積極的に発信する。	徳島新聞、四国放送、NHK等に資料提供を積極的に行う。	徳島新聞に38回、四国放送に2回、四国放送ラジオに1回、取り上げられ、本校生徒の活躍が紹介された。	A			
		② PTA活動の活性化を図る。	1	PTA総会・役員会の活性化を図り、参加率を向上させる。	役員会40%以上、総会30%以上の参加を得る。	役員会は37.1%、総会は24.6%の参加であった。	B			
			2	体育祭等の行事で、PTA家庭教育研修部による模擬店や展示を実施する。	体育祭等の行事においてPTA家庭教育研修部役員の参加率50%以上を得る。	評価指数は67.5%であり、PTA役員以外の保護者も多数参加していただいた。	A			
		③ 中学校との連携を図る。		1	中学生体験学習の充実を図る。	参加者アンケートにおいて「満足度」を90%以上にする。	アンケート結果は98%であった。			A
				2	中学校への進学説明会を充実する。	一般選抜の願書受付時点で、前年度以上の出願者数にする。	昨年度は145名の出願があり、今年度は141名であった。定員が昨年度より5名減少したことを考えると目標達成できたと考ええる。			A
	3			オープンスクールの充実を図る。	参加者アンケートにおいて「満足度」を90%以上にする。	アンケート結果は90%であった。	A			

重点課題	重点目標		活動計画	評価指標	評価指標による達成度と活動計画の実施状況	評定	総合評価及び所見	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
	全体レベル	下位組織レベル							
地域と連携した専門教育の充実	6次産業化に向けた取組等により、地域貢献につながる実践力を育成する。	① 行政機関との連携強化を図る。	1 つるぎ町及び美馬市と連携した地域貢献活動を推進する。	つるぎ町や美馬市のイベントに参加し、地域のPR活動を行う。	にし阿波健康防災フェスタに参加し、特産品の販売やPR活動を行った。	A	(評定) A	本年度もマスコミへの広報活動により、新聞にもたくさん取り上げられており、地域貢献活動の取組は素晴らしいものがよく分かる。今後も地域の特色を活かした取組に期待する。海外にマーケティング販売を試しており、地域創生を担える活動である。	「6次産業化プロジェクト事業」が本年度から始まり、三好高校・辻高校・本校が連携し、アロマキャンドル・石けん試作に取り組んでいる。本年度のスーパーオンリーワンハイスクール事業では、本校は海外展開を目指すグローバル枠に選ばれ、2年間の指定を受けている。来年度は、さらに本校からの発信に努めていく。
		② 企業との連携強化を図る。	1 企業と連携した地域貢献活動を推進する。	美馬交流館と協力し、「みまから」の生産や販売に関する新しいアイデアを提案する。	半田あたご柿酢の会の依頼により、柿酢のPOP広告や首かけPOPの作成を行った。	A	(所見) 「みまかトウガラシの6次産業化」や「和傘制作」の活動に関連した行政機関や地域との連携を行ったり、各種のイベントにおいて特産品の販売を行うなど地域のPR活動に貢献することができた。		
			2 販売実習・インターンシップ等を積極的にいき、職業・勤労意識を高める。	販売実習・インターンシップ参加生徒の満足度を85%以上にする。	販売実習・インターンシップ	販売実習15名・海外マーケティング販売実習12名・インターンシップ15社44名が積極的に参加した。参加者の満足度は100%である。	A		
		③ 地域との連携強化を図る。	1 商品開発・伝統工芸の継承や観光振興を地域と連携し活動を推進する。	「みまから」を使った商品開発や和傘作りを行う。人力車を活用した地域観光振興策を提案する。	四国大学と協力し、赤とうがらしのトマトソースと青とうがらしのオイルを試作した。	A			
工業・商業教育	① 各種競技会等へ積極的に参加し、国家資格、検定試験等に全力を挙げて取り組む。スーパーオンリーワン事業等の成果を生かした本校ならではの教育を推進する。	3年間をとおして職業資格・検定の取得を行うと共に、各種競技会へ参加する。	1 3年間の資格・検定取得指導体制を取り、全校生徒が複数の資格・検定を取得する。	工業学会優秀生徒表彰(資格)を75%以上にする。 全国商業高等学校協会主催の検定3種目以上1級取得者を10%以上にする。 他科の資格・検定取得者数を10名以上にする。	工業学会優秀生徒表彰は130名中106名で82%となった。全商主催の検定3種目以上1級取得者は46名中12名で26%であった。他科の資格・検定取得者は4名であった。	B	(評定) A	県西部地域における専門教育の中核となる目標に向かって、一生懸命に取り組んでいる様子がよくわかる。資格取得でも全校体制で取り組んでおり、成果が出ていることに感謝する。 また、競技用ロボット・マイコンカーラリー・ものづくりコンテスト大会・簿記コンクール等に好成績を残し、珠算・電卓競技会・簿記コンクールの全国大会出場を果たしていることは素晴らしい。	全校体制で国家資格など、各種資格・検定試験に全力を挙げて取り組むことを目標に、次年度も努力していく。 数々の大会に出場し、結果を残せた年となった。来年度はさらに専門教育の充実に努めるとともに探究心を深め、全国大会での上位進出を目指し努力していく。
			2 競技用ロボット・マイコンカーラリー・ものづくりコンテスト大会・簿記コンクール等に出場し、全国大会に出場する。	工業科・商業科とも全国大会へ、1種目以上出場する。	マイコンカーラリー全国大会、全国高校生ロボット競技大会に昨年度に続き出場した。また、珠算・電卓競技会・簿記コンクールの全国大会出場を果たした。	A			
	② 工業科・商業科に渡る知識と技術を生かし、共同しながら特色ある教育を展開する。	地域の特産品の「みまから」等を教材とした実践的学習を確立する。	1 「フルセットみまから唐辛子栽培システム」を開発する。	雨水、風力、太陽光を活用したフルセットの栽培システムの各部の改良を行った。	A				
			2 工業科と商業科が共同した教材を開発する。	防災倉庫の改良・改善を行う。	雨水に対する防水および排水の対策を行った。	A			